責任とペナルティ

—平成金融“恐慌”Q＆A—

文・藤原賢哉（経済学部助教授）
Fujiwara, Kenya
広島弁指導・小滝光博（経済学部助教授）
Odaki, Mitsuhiro
写真・滝本勇紀（経済学部学生）
Takimoto, Yuki

バブル崩壊に伴う不良債権の増大、金融機関の経営破綻、住専に対する公的資金の導入など、金融機関に関するニュースが毎日のように報道されています。

「乱脈経営の金融機関の処理に税金が使われるとはケシカラン」「責任の所在を明確にせよ」という批判が高まる一方、「金融システムの安定性を守るためにはやむを得ない措置である」との説明が政府によりなされています。

政府の言う金融システムの安定性とは何なのか、なぜ金融機関を救済しなければならないのか等々、昨今の金融をめぐる議論について、仮想の人物に議論してもらうことにしました。

登場人物は、T教授、M君、B子さん、Q君の四人で、このうちT氏は大学でファイナンスを教える研究者で、他の三人はそのゼミナールの学生という設定です。

M君　最近、住専への公的資金導入とかでマスコミ等が騒いどるみたいじゃけど、いったい何が問題になっとるんかいのぅ？

B子さん　えーっ、M君、ファイナンスのゼミに所属しとるんのに、そんなことも知らんのん。しょうがないねえ。住専というのは「住宅金融専門会社」の略称で、都市銀行や長期信用銀行などの民間金融機関が設立母体となって設立された住宅ローン専門の金融機関のことよ。

この住専、バブルの崩壊によって多額の不良債権を抱えとるんじゃけど、その損失の一部を政府が税金で補填しよう言うとるんが、今回の騒ぎの発端なんよ。

M君　へぇー。そりゃひどいのー。わしらの税金がそんな金融機関の救済のために使われとるなんてとんでもないわぁ。Q君、そう思わんか？

Q君　まぁのぅ。じゃが、ワシらが反対しても、どうにもならんのじゃないんか。それに、政府は「金融システムを守るため」に救済するんじゃと言うとるし、株価も住専の処理案が発表されてから上昇しとるみたいじゃけえ、ええんじゃないかのぅ。少なくともなんもせずに放っとくよりはましじゃないかのぅ？

M君　うーん、そうかのぅ、そんなものかのぅ。

確かに金融システムは大事じゃけどのぅ。

T教授　なんじゃあ、金融システムの安定性が大事じゃって？　M君、金融システムの安定性について説明してみぃ。

M君　あっ、T先生。まずいのぅ……。えーと、給料や年金の受け取り、公共料金の支払い、クレジットカードの決済などは、金融機関を通じて行われとるし、企業に対する設備投資や運転資金の貸付、手形の決済などについても、金融機関が行っとる。

つまり、お金を人間の血液にたとえると、血管に当たるのが金融システムじゃし、金融システムが正常に機能せんと経済活動がうまくいかんということじゃないかのぅ。

B子さん　そんなんは当たり前のことじゃないん？　銀行だって民間企業なんじゃけえ、倒産しても当たり前のはずじゃに、なんで（放漫経営の）住専を救済せにゃあならんの。

金融システムの健全性を維持するためには、むしろこういった金融機関は早めにつぶすべきじゃないんね？

Q君　確かにそこがポイントよー。問題は、これらの金融機関を救済せずに倒産させたとしても、それが他の金融機関に波及せんかどうかという点よ。

個々の金融機関は金融システムに組み込まれ、お金の流れでつながっとる。金融機関の間では毎日数百兆円もの資金が行き来しており、ある金融機関が倒産してすべての業務が止まると、その金融機関からの入金をあてにしていた別の金融機関に資金不足が連鎖的に広がり、その一方で金融機関の経営に不安を感じた預金者が預金引き出しに走ると、すべての金融機関が倒産してしまうこともあり得ると思うんじゃけど。

B子さん　そんなこと実際に起こりうるんネ？

経営が怪しい金融機関にお金を貸す金融機関なんかそがいにけぇあるとは思えんし、そもそも、住専は預金を取り扱っとらんけん、預金取り付けなんか起こるはずないじゃないんね？

Q君　可能性はあるんでー。実際に、金融機関の多くは住専に多額の融資をしとるし、損失の負担によっては金融システムが不安定化する可能性もあるんじゃないかのぅ。

だいたい、海外のマスコミなんか今回の公的資金投入額（六八五〇億円）で本当に日本の金融システムが守られるんか心配しているほどじゃ。

M君　あのー、金融恐慌ちゅう言葉を聞いたことがあるんじゃが、本当にあったのかのぅ。

Q君　ほんとうじゃー。昭和の初期に起こったんでー。それに金融システムが崩壊した例なんて世界各国あるんでー。先生そうですよねー。

T教授　おお、その通りよ。「昭和金融恐慌」というてのう、昭和二年に大蔵大臣の失言に端を発して、預金の取り付け騒ぎが全国的に広まり、すべての銀行が一時閉鎖に追い込まれたことがあるんじゃ。

当時、「台湾銀行」という銀行が乱脈経営の結果、経営悪化に苦しんどって、政府が救済すべきかどうかが議論になったんじゃが、結局、そんな銀行を救済するんはケシカランいう声が強うて、救済案が否決されてしもうたんじゃ。

先の大臣の失言もこれに関連するもんで、台湾銀行に対する救済案が否決されたことから一

大学の授業形態の一つであるゼミナール風景

部の銀行が倒産したと誤って発言したことが、預金取り付けのきっかけとなったんじゃ。

Q君　昭和恐慌の時と今の日本の状況が似とるという人もおるらしいけど、どうなんですか？

T教授　確かに似とる点はいくつかあるのぅ。まず、あの当時もバブル経済らしきもんがあったんじゃ。第一次大戦後の復興景気により、株価や土地が大幅に上昇したが、その反動で大正九年に景気が後退し、金融機関は多くの不良債権を抱えることになったんじゃが、それに追い打ちをかけたんが関東大震災で、政府は震災手形の発行を余儀なくされたんじゃ。

ほんで、円相場が高騰した点も似とるね。震災後の輸入増加に伴って急落した円相場は、旧平価の維持を目指す政策によって人為的に引き上げられており、その後も実力以上の円高が続いとったと言われとる。

そのほか政治情勢も似とると指摘する人もおるね。当時は、明治維新以来の元老・藩閥政治が衰退し、政党政治への転換期にあった。藩閥勢力と政党との戦い、政党の分裂と党争。内閣は一年ごとに変わり、大正末期には少数連立内閣が政権を担当し、問題の先延ばしや日銀融資による経営破綻銀行の救済など弥縫策が繰り返されていた。

つまり金融の健全化のために大なたを振るうといった状況にはなく、政治のリーダーシップが欠如しとったと言われとるんじゃ。

M君　ふーん。なんか気持ち悪いぐらい今の日本と本当によく似とるのー。

B子さん　でも違う点もたくさんあるんじゃないん？

例えば、当時は世界中不況だったけど、今はアメリカなんかまあまあの景気だし、日本だってなんとか正の名目成長率を維持しとるしね。また、震災の影響も関東大震災の時の方が大きかったと聞くよぉ。それに、だいいち預金保険制度があるじゃないねー。

Q君　その預金保険というのがくせ者なんよ。まず第一に、一〇〇〇万円を超える大口預金者は、預金保険が効かんけぇ預金引き出しに走るじゃろ。それに、預金保険の対象である一〇〇〇万円までの預金者であっても、いったん銀行が倒産して預金保険の支払（いわゆるペイオフ）が行われるとすると、預金口座の確認や名寄せ、ローンとの相殺なんかに時間がかかり、最低一か月程度は、預金の引き出しや代金決済ができんと言われとるんじゃ。

ほいじゃけぇ、近い将来そのお金を使う可能性がある人は、やっぱり早う引き出しとく方が得策じゃ思うよ。政府が、預金保険の支払（ペイオフ）政策を採らんのは、それがかえって預金取り付けを助長するんではないかと恐れとるからではないんかのぅ。

B子さん　ほいでも、じゃけぇ言うて大口預金者の預金を保証したり、銀行を倒産に追い込まないんじゃあ、放漫経営の付けを国民に押しつけるみたいで納得がいかんよー。少なくとも、銀行経営者は、全員責任をとって辞めてもらわんとー。将来に禍根を残すよね。

T教授　B子さんの怒りはもっともじゃ。もし、責任者が何らかのペナルティを受けんと救済されるんじゃったら、将来またこがいなことが起こるかもしれんけぇね。

失敗しても救済されるんで努力しなくなってしまうことを、経済学では一般に、モラル・ハザード（道徳的危険）と呼ぶんじゃが、まさにこがいなことが生じる可能性があるね。

M君　今回の住専の件で責任追求の方はどうなっとるんじゃ？

B子さん　新聞の報道なんかを見ると、何か不十分な気がするよ。住専の社長や住専に出資しとった銀行の頭取が辞めたいう話は聞かんし、農林系の金融機関なんか政治家に圧力をかけて損失の負担を少なくしたと言われとるよね。

また、借り手のなかには、十分な取り立てが行われてないところもたくさんあると噂されとるよ。

M君　だんだん腹が立ってきたで。いったい政府は何をしとるんじゃ。監督当局にも責任があるじゃろうが。

B子さん　大蔵省など監督当局も批判の対象にさらされとるよぉ。住専の社長に大蔵省のOBが就いとったのに、不良債権を見過ごしとったんは問題じゃあいうてね。

T教授　口の悪い奴は、今回の住専の処理は、ある種の「国家談合」じゃあ言うとるで。

つまりのぅ、互いにスネに傷を持つ関係者（行政、民間銀行、農林系金融機関）が、互いの責任を追及されとうないけぇ、こがいな処理を行ったというわけよ。

Q君　確かに、責任の問題は大事じゃー。ほいでも、当事者にとっては、自分だけが悪者にされるんはご免だと思っとるんじゃないかのぅ。

銀行の経営者でも、バブルの時期に責任者だったのはみんな辞めてしまっとって、当時責任者でなかった自分がなんで今責任を問われて辞めにゃあいけんのんか、と思っとるかも。監督当局の人についても同じことが言えるんじゃろうて。

M君　ほいでも、そがいなこと言うとったら、どうにもならんのんじゃないんかー。納得いかんのぅ。辞めた人も責任をとってほしいのぅ。

Q君　政府は「日本版RTC」とかいうて、住専の不良債権の回収に当たる機関を設立して債権の回収に当たる一方、詐欺や背任等の犯罪が

行われとれば、どんどん告発すると言うとるよ。

B子さん　ほんまかねー。まぁ最低そのくらいはやってもらわんとね。それに、農林系の金融機関の改編や民間銀行のリストラも進めてほしいよねー。

T教授　そうよのぅ。そもそも不良債権問題が発生した背景には、金融機関の単なる放漫経営だけじゃのうて、時代に適合せんようになった金融システムの矛盾が隠されとると言えるのー。住宅ローン提供機関としての住専の役割は既に終わっとるし、運用ノウハウのない農林系金融機関にお金が集まりすぎること自体も問題じゃね。民間銀行も不良債権の処理に追われて欧米の金融機関とは収益力や技術力の点でかなり格差がついたと言われとるよ。

従来の監督行政のあり方も行き詰まったと言えるんじゃないかねぇ。

B子さん　つまり、二十一世紀に向けて効率的な金融システムを作るためには、金融機関の大幅な整理・再編を進めるとともに、監督当局のあり方も再考する必要があるということじゃね。

M君　具体的にはどのようにしたらええんかいね。

B子さん　そうね。まず、金融機関の情報公開（ディスクロージャー）を進めるとともに、問題のある金融機関に対してはすぐに処罰を行うとともに、早めに不良債権の償却を促す必要があるんよね。

Q君　確かにそれは理想じゃけど、それを実現しよう思うたら、問題もあるんじゃないかのぅ？

例えば当局の検査体制を拡充するためには、新たな組織を作ったり、職員を大幅に増やさにゃならんと思うけど、こりゃあ社会にとっては新たなコストの負担を意味するでー。

M君　いやぁ、いろいろ難しい点があるようじゃのぅ。久しぶりに勉強させてもらいましたでー。

夭逝（ようせい）した若き学徒を送る辞

松尾俊英先生は、平成七年十月七日に四十四歳で逝去されました。

ここ数年は腎臓病をわずらっておられましたが、病状が徐々に回復に向かっておられるようにお見受けしていたので、ご家族も、われわれ同僚も安心していました。

ところが昨年十月に病状が急変し、手当の甲斐もなく急逝されました。我々にとって、先生の教壇復帰が間近いことを信じていた矢先の訃報でした。ご家族のお話によると、先生は昨年、新キャンパスに移転したばかりの経済学部で教壇に復帰することを楽しみにしながら、講義に向けて準備を始めようとしておられたとのことでした。

先生は、広島大学政経学部、一橋大学大学院経済学研究科で学ばれた後、ペンシルバニア大学大学院に留学され、そこで昭和六十二年にPh.Dを取得され、アメリカで短期間教壇に立たれた後、昭和六十三年に本学経済学部に講師として着任されました。

昭和六十二年の理論・計量経済学会で学位論文の一部を報告され、高い評価を得られました。今でも、その学会でさっそうとして報告された先生のお姿が目に浮かびます。

先生の研究は、社会選択の理論、経済活動における情報の役割、ゲームの理論など数理経済学的な分析を主とするものでした。その後、学位論文の研究を発展させ専門雑誌に論文投稿の準備をされておられましたが、志半ばで突然逝ってしまわれたことは、先生にとってまことに残念であったことでしょう。それにもまして、新進気鋭の先端的な研究者を同僚としてお迎えし、期待するところ大であった我々にとっても、残念でなりません。衷心より先生のご冥福をお祈りいたします。

経済学部　理論・計量経済学大講座　前川功一（まえかわ・こういち）

故武田赳（たけし）名誉教授のご逝去を悼む

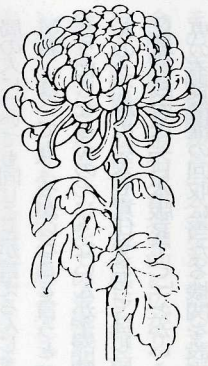
武田赳先生は、去る一月十八日、九十一歳で逝去されました。

先生は、昭和七年広島文理科大学化学科をご卒業になり、直ちに広島文理科大学助手、昭和十三年より海軍航空隊教授、広島高等師範学校教授等を経て、昭和二十四年新制大学創設にあたり、広島皆実分校教授（昭和三十九年から教養部）に任ぜられました。

昭和四十三年の停年退官を迎えられるまで、三十八年の長きにわたって化学の教育と研究にあたられ、その深奥な学識と温厚篤実な人格をもって、多くの英才を養成されました。また、広島大学評議員、補導協議員などを歴任され、広島大学の発展に貢献されました。さらに、ご専門の電気化学及び構造化学の分野では多くの優れた研究成果を発表され、また、日本化学会の常議員、代議員、中国四国支部長などを歴任して、学界の発展に尽力されました。

広島大学ご退官後は安田学園に籍を置いて、安田女子大学・同短期大学の副学長、評議員、図書館長、学生部長など多くの要職を歴任され、昭和四十九年には、先生のご功績を讃えて勲三等旭日中綬賞が授与されました。また昭和五十六年には、同大学名誉教授の称号が授与されています。

安田学園から身を引かれたあとは、神戸市東灘区にお住まいの長男一郎様ご家族のもとに身を寄せられ、ご令室様とご一緒に楽しい日々を過ごしておられました。昨年の神戸の大震災のときお電話しましたら、お元気とのことでしたので安心しておりました。また、二年ほど前、広島大学OB会にご出席になり、お元気であったと聞いておりましたので、突然の訃報に接したとき一瞬自分の耳を疑いました。

このたび、一郎様よりお手紙をいただき、先生が神戸をこよなく愛されたこと、しかし、事情があって先生がしばらく神戸を離れなければならなかったこと、その結果、先生のお身体が急に弱くなられたことなど先生の最近のご様子を知りました。結局、先生は神戸大震災の犠牲者であったのだと思います。先生の在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

総合科学部化学系　岡野正義（おかの・まさよし）